

令和 5 年 7 月 20 日

文教厚生常任委員会

委員長 綾城 美佳 様

文教厚生常任委員 上田啓二

文教厚生常任委員会行政視察報告書

下記の日程で行政視察を実施しましたので、別紙のとおり報告します。

記

1. 視察期日及び視察先

令和 5 年 7 月 11 日（火） 北九州子どもの村小・中学校（学校法人きのくに子どもの村学園）
「公教育のあり方について」

2. 視察参加名簿

委員長	綾城	美佳
副委員長	米弥	又由
委員	林	哲也
委員	岩藤	睦子
委員	中平	裕二
委員	上田	啓二
委員	江原	健二
委員	ひさなが	信也

以上 8 名

3. 視察報告・所感 別紙

(別紙)

視察先	北九州子どもの村小・中学校（学校法人きのくに子どもの村学園）			
視察日時	令和 5 年 7 月 11 日 10：30～12：00			
視察項目	公教育のあり方について			
対応部署名	高木 秀実校長			
学校概要	2009年4月	小学校が姉妹校		
	2011年4月	中学校開校		
	2016年4月	小学校法人合併		
	1992年4月がスタート			
	和歌山県橋本市に於いて「きのくに子どもの村小学校」開校 北九州子どもの村小学校・中学校 定員1学年12名 現在115名の生徒数（70名は寮生）			
視察内容				
【教育目標】「自由な子ども」を育てる				
■感情面の自由				
無意識の中に秘められた不安、緊張、自己否定感などから解放され、情緒が生き生きと躍動すると同時に、自己意識がしっかりしていて、しかも自信と自己肯定感をもって生きる子				
■知性の自由				
規制の知識や技術を受身的に習得するのではなく、生活の中から見つけた具体的な課題に取り組み、知識や技術を創造する体験を積み重ねて、知的探求の態度と力を伸ばす。				
■人間関係の自由				
徳目主義の上からの道徳教育によってではなく、心理的に自立した個人として、みんなと目標を共有し、役割を分担して問題を解決する体験に参加して、共に生きる喜びを味わい、人間関係の術を学ぶ。				
【基本方針】				
■自己決定の原則				
△子どもがいろいろなことを決めます。				
学習計画や行事の立案が子どもと大人の話し合いで決まります。自分の入るクラスが選べます。クラスミーティング、寮のミーティング、そして全校集会など、話し合いのとても多い学校				
■個性化の原則				
△一人ひとりの違いや興味が大事にされます。				
個性や個人差を尊重します。年齢が同じだからといって、同じことを同じ方法で、同じペースで、同じ答えに向かって学習するではありません。広い範囲のさまざまな学習や活動が選べる。				
■体験学習の原則				
△直接体験や实际生活が学習の中心になっています。				
本やドリルの勉強よりも、実際に作ったり調べたりする活動が重視され、「プロジェクト」と呼ばれて時間割の半分を占めています。クラスはプロジェクトのテーマによってつくられ、子どもは好きなところを選んで所属します。				

【授業について】

■プロジェクト

基本方針の3つの原則が調和的に実行される形態で、たんなる教科の寄せ集めではなく、デューイの「活動的な仕事」にあたります。

小学校・・・週14時間

中学校・・・週11時間

■自由選択・ミーティング

個別活動よりもグループ活動が中心の時間です。スポーツ、図工、音楽、英会話など、たくさんのメニューから一学期ごとに選べます。

小学校・・・週3回、計6時間

中学校・・・週2回、計3時間

ミーティングは週1回の全校集会のほかに、クラスのミーティングや全寮ミーティングなどが折に触れて開かれます。犬委員会や遠足委員会などの仕事もあります。ミーティングは自由学校の成否を左右するカギです。

【授業料について】

小学生・・・70万円／年（寮生は100万円）

中学生・・・100万円／年

【進路について】

7～8割は大学に進学している。その後職員として戻ってくる子もいる。

【今後の増設について】

色々な自治体から、来てくれないか・・・の要請が入っている、という。
しかしながら、今の体制では増設は難しい。

所 感

まずは反省も含めて、私の頭の中には、普通の学校に馴染めない付いていけない子ども達の集う学校と思っていました。まったくいけない訳ではないとおっしゃっていましたが、大半が元気な普通の子供達でした。正直、こんなに自由で開放された学校が存在することに驚きました。

とはいえ、今後の拡充を私なりに考えると、

① 先ずは親御さんの説得からスタートすること自体の困難。

② 本当に自然で自由な空間を好む子どもかどうかの確信。

③ 学費もさることながら、公立学校との違いの認識。

ここまで持ってこられた学園長の堀真一郎先生には頭の下がる思いです。また、お世話になった高木校長先生にも感謝申し上げたく存じます。ありがとうございました。